てしまったんです。高額請求のあと、販売店で相談した際にもその件を指摘され、あくまでもこちらの落ち度だという話になりました」

トラブルがバレるのが怖い

知識不足や思い込みが悪質な形で利用されることもある。たとえばアダルトサイトによる金銭的被害だ。

二〇一六年版『消費者白書』によると、六十五歳以上の消費生活相談の第二位は「アダルト情報サイト」で、一万二千六百七十九件に上る。アダルトサイトと聞くと、「性的な動画を見た」と思われがちだが、実際には利用の有無にかかわらない。国民生活センター相談情報部の井上竜一さんは、被害例についてこう語る。

「スマホを利用中、成人向け広告をタップ（指で押す）すると、いきなりアダルトサイトの会員登録画面に飛ぶのです。申し込みなどしていないのに登録完了と表示され、『登録料として三十万円支払ってください』、そんなメッセージが出ます。併せて『間違って登録した方はこちらまでご連絡ください』と、登録解除用の電話番号が現れます」

〝間違って登録した〟人は、当然ながら慌てふためく。アダルトサイトを利用していないのに三十万円もの請求をされるのだから、すぐさま指定の番号に電話したくもなるだろう。実はこれこそがサイト側の手口。電話をしても解約には応じてもらえず、「払わなければ法的措置を取る」などと脅されるのだ。不審に思っても、家族にバレるのが怖いからと支払う人もいるという。

被害に遭わないためには、日ごろから関連ニュースをチェックするなどの情報収集が欠かせない。少しでも「怪しい、おかしい」と思ったらすぐに信頼できる人に相談する。消費者ホットラインの「１８８」に電話する方法もある。近くの消費生活相談窓口を案内してくれ、年末年始を除き原則毎日利用できる。

深刻な被害の一方で、みずからトラブルを誘発するケースもある。特に注意したいのがＳＮＳ上での言動だ。ＳＮＳはソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。インターネットを通じて複数の人が交流する広場のようなものだ。仲間づくりや情報収集に役立ち、参加者同士で自由に意見交換ができる。

良好な関係性を保つためには、実生活と同様、相手に対する気遣いや配慮が必要になる。ところが高齢者の場合、過去の社会的評価や、豊富な経験値から生じるプライドもあり、ついつい「自分は正しい」と考えがちだ。自分本位の主張が高じる

と、ＳＮＳのトラブルメーカーになりかねない。

「高齢者のＳＮＳ利用には、若者とは違った承認欲求があります」と語るのは、ダイヤ高齢社会研究財団の主任研究員・澤岡詩野さんだ。

「一般的に若い人の承認欲求は、多くの人と仲良くなりたいという、いわば広がりを求めるものです。一方、高齢者の場合は現実生活での行動範囲や人間関係が年々狭まっていく前提があります。限られた環境の中で余裕がなくなる反面、まだ自分はいけるという自意識も強い。だからこそ、ＳＮＳ上では自分を認めてもらいたい、自分の考えを誇示したいという欲求が強くなりがちなのです」

澤岡さんは高齢者のＳＮＳコミュニケーションについて研究してきたが、特に男性の場合、「最初は慎重、あるときタガがはずれて暴走する」傾向があるという。

たとえばフェイスブックをはじめる場合、事前に本を買い込んで勉強し、投稿コメントをわざわざ下書きするような男性が少なくない。そうまでして慎重に様子見しながら、少し慣れてくると一気に自己主張したり、見ず知らずの人と手あたり次第に友達になったりする。

実際にどんな暴走が起きているのか。広島県に住む男性（65）は、「五十年来の友情が、たった三カ月で壊れた」と肩を落とす。

「中学時代の同窓会を機に、二十人ほどの男女でＬＩＮＥをはじめたんです。当初はかつての友達感覚で楽しめたんですが、ある男が特定の候補者の選挙応援をはじめた。本人に悪気はなかったでしょうが、それぞれ思想信条や選挙絡みのつきあいがあるわけです。男同士が議論をはじめ、そのうち『昔から変人だった』などと過去の話まで蒸し返す。本筋から離れたところで罵り合いになり、仲介役の女性陣も嫌気が差して離れていきました」

小学生の息子を持つ東京都の女性（39）は、地域のイベントで知り合った高齢男性からフェイスブックで「友達申請」を受けた。相手は自治会会長として一目置かれる存在だったため、個人同士で簡単なメッセージ交換をするようになった。

元祖 富一 えー一 ®
銀座並木通り本店　帝国ホテル店　新宿別館